
神様を家に居候させると、姉貴と神の謎の争いが始まったのですが！

哲史

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様を家に居候させると、姉貴と神の謎の争いが始まったのです
が！

【Nコード】

N1311Q

【作者名】

哲史

【あらすじ】

人助けが趣味の平島伸行。

しかし、実家は極道というおかしな子。

両親は隣の家に、一応別居している。

そんな伸行が昔の思い出を夢に見た日、

伸行の性格からか、困ってる少女を助ける事になる。

そして、その思い出の象徴ともいえる女の子【静】と、再会を果たす。

「お前：静なのか：？」

『そうだが、まさか：あの時の？！』

結局、家に居候させる事に：。

『伸行：誰この子？』

そして、重度のブラコンのお姉ちゃんは焦り：？

『伸行は渡さない、絶対に！』

『闘いとなれば私も負けられないな！』

ここに、姉貴と神の謎の争いが幕を開ける。

夢

久しぶりに夢を見た。

それは昔俺が体験した不思議な話。

『おい。こいつなんか耳生えてね？耳？』

一人大柄な、いかにもガキ大将っぽい奴が一人の女の子を見て笑う。
少女は異国の子であろうか？

金色の髪をキラキラと輝かせている。

歳は…小学3年生ぐらいであろうか。

『『生えてる、生えてる！』『』』

周りのコバンザメもそれに同調する。

取り巻きとガキ大将は明らかに上級生のようだ。

『おい、不細工！』

そんな暴言を多々少女に吐く。

少女は今にも大泣きしそうな感じで、その大きな目を潤ませていた。

『『変人！変人！』『』』

取り囲み、はやし立てる。

『本当に行くのか、兄貴？』

ひょこっと1人の男の子が、兄貴と呼ばれる少年の後ろから顔を出して言う。

「ばっきやろう！陸奥！！」

兄貴と呼ばれる少年はどーんと腕を組み陸奥に怒鳴った。

『でも…。』

弱気な陸奥は後ろに隠れて、ぼそぼそと反抗する。

「でもも、くそも無い。誰かが困っていれば手を差し伸べる。それ

が：男だ！行くぞ、ついて来い！」

陸奥の言う事も聞かず兄貴と呼ばれる少年。

平島 ひらしま のぶゆき 伸行 現在高1

そして、陸奥と呼ばれる少年。

陸奥 むつ 翔太 しょうた 現在高1

この2人と後に出てくる2人が、

今後親友とまで呼ばれるようになる少年達。

「女の子相手に何やってんだよ！！」

伸行は円になっていいる少年たちを退かせ、女の子をかばう。

『てめえは、3年の平島じゃねえか：。』

ガキ大将が睨みつけて伸行に話しかける。

「うるせえ！てめえは黙ってろ！！」

伸行は突っ走り、いじめている張本人をおざなりにして、女の子をかばう。

「大丈夫か？どっかケガとかしてねえか？」

少女に尋ねる。

『：ありがとう。』

それだけ言って立ち上がり、伸行の後ろに隠れ裾を掴む。

伸行は嬉しくなり、大声になる

「俺が：絶対守ってやる、おい！陸奥！どこ行きやがった？陸奥う
うううううう。」

伸行は陸奥を呼ぶ。

『怖いよ、兄貴。』

陸奥は木の陰に隠れてこちらを見ていた。

「何してやがる、こっちにきやがれ！」

伸行は手招きしながら陸奥を呼ぶ。

『俺を無視すんなあああああ！』

さっきから、ガキ大将がシカトを食らって少しかわいそうだ。

『『『「そうだ! そうだ!」』』』
取り巻きもそれに便乗する。

「黙れ、最低野郎どもが!! : 陸奥、この子俺の家についていけ。」
伸行はそう言うのと女の子を円の外に押し出し、陸奥に引き渡す。

『わかったよ:。』

陸奥は少女の手を引き、走り出した。

『ぼこぼこにしてやるぜ!!』

ガキ大将は息を巻く。

そして、その後言うまでも無くぼこぼこにされたが、
帰って来た伸行の目は達成感で輝いていた。

『げめんああい : げめんああい。』

少女は帰って来た伸行を見るとすぐに大泣きを始めてしまったが。
少女は嬉しさと悲しさが入り混じったような複雑な顔をしていた。

「氣にするんじゃないねえこれぐらい。 : まあお前が無事で何よりだったぜ。それより、お前名前は？」

伸行は早口で言葉を羅列する。

何より少女が可愛すぎて、負けた自分がはずかしく言葉が早口になる。

『静。^{しずか}』

「うわああああああああっ!」

そこで目が覚めたというか、覚まされた。
体にずっしりと重みがかかっている。

『おはよう、伸行。そして、キスをしなさい。』

綺麗な黒髪、整いに整った顔。

まさに大和撫子?といった感じ。

性格も生活態度も完璧。

そんな素晴らしい姉貴だが、残念ながら軽度のブラコン。

※重度のブラコンです。

姉貴の名前 ひらしま 平島 ゆい 唯

現在高3。

「おはよう。そしてそれはおかしいぞ、姉貴！」

顔を近づける姉貴を手で押しのける伸行。

今日一日大変になることも伸行には想像でなくなった。

夢（後書き）

現在、異能力と闇と無敵主人公・東西南北っ！〜4人の花嫁〜も連載しております。

こちらも是非宜しくお願いします！

金

伸行と唯は2人暮らし、実家はすぐ隣にあるのだが親はさっさと子離れしたほうがよいと唯が言うので、隣に住むことになった。

父親の ひらじま 平島 こうた 孝太

現、平島組組長は自由性を尊んでいるので、即OKしたのだが、母親の ひらじま 平島 はな 花は、中々首を振ってはくれなかった。なんせ重度の親バカなのだから、困ったもんだった。

結局、隣に家を建てて、常に見張りをつけることで良しとしてくれた。

「姉貴、学校じゃいつもどおりで頼むな！」

そんな唯の仕事は、朝から料理を作り、

伸行の制服を出すところまでとことんやるというものだ。

伸行は、なんという幸福を朝から味わうのだろう。

『分かってるわ。』

そういつて伸行は学校に親友達と登校する。

ここでのいつもどおりというのは、

そこそこのシスコンの伸行だが、

恥かしがりの伸行は学校では他人のように接す。

唯も嫌われたくないので、昼に弁当を届けるだけだ。

そして、

その日1日は何事も無く過ぎた、ように思えたが帰り道。

普段なら学校から殆ど1人で帰る事も無いのだが、その日は1人だった。

夢のことを思い出しながら…。

すると、道の端に1人の少女を囲む複数の男たち。

女の子の頭しか見えないが、まるで黄金のような金髪がチラツと見えた。

伸行は心臓がドクンとはねた気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1311q/>

神様を家に居候させると、姉貴と神の謎の争いが始まったのですが！

2011年1月16日19時49分発行